

**GREEN BUSINESS**  
IMPLEMENTATION MODEL ZUKAN

**環境  
ビジネス  
実装モデル  
図鑑**

株式会社エコクリエイティブ  
代表取締役

**堀 敦博**  
HORI ATSUHIRO



はじめに

## 150兆円超のGX市場で ビジネスチャンスを掴む

「環境にいいことは、儲からない」

そう思っていないですか。利益を追えば環境に負荷がかかり、環境に配慮すれば利益が削られる。こうしたトレードオフは、経済活動における前提だと思われてきました。

しかし、その前提はすでに崩れ始めています。「環境」と「ビジネス」は、どちらかひとつを選ぶものではありません。私たちが暮らす地球の大气、大地、海、森、そして、そこに生きるすべての生命の「本来あるべき姿」を守りながら、経済的な持続可能性や社会全体の利便性を追求する。その取り組みが、「環境ビジネス」です。

脱炭素経営、再生可能エネルギー、資源循環、生物多様性保全——。環境ビジネスは、この10年で急速に拡大し、いまや130兆円を超える巨大市場へと成長しました。

国は、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ（カーボンニュートラル）達成に向け、2023年から10年間で官民合わせて150兆円超のGX（グリーントランスフォーメーション）投資を計画しています。

投資家は環境への取り組みに積極的な企業に対し、資金を投入します。大企業は、自社のサプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量削減のため、環境対策に取り組んでいる企業との取引を優先します。消費者も、環境配

慮を重視して商品を選ぶ時代です。

企業はもはや環境ビジネスを避けて通れません。この流れをチャンスと捉えられるか、大波に乗れるかどうか、企業の成長を左右すると言っても過言ではないでしょう。

ただ、環境ビジネスの立ち上げは、決して簡単なものではありません。各国の規制や制度が急速に変化する中で、最新動向を踏まえながらリスクを見極め、事業を設計していく必要があります。

さらに、自治体、金融機関、サプライチェーン上の企業など、多くのプレイヤーが関与するため、ビジネスの構造は複雑になりがちです。

こうした課題から、多くの企業が環境対応への必要性を理解していても何から始めればいいかがわからなかったり、本質的には環境にいいと言えない活動をしてしまったりする例は少なくありません。

筆者は、環境ビジネスコンサルタントとして、20年にわたりさまざまな企業の環境ビジネスの立ち上げに携わってきました。代表を務める株式会社エコクリエイティブでは、企業や自治体を対象に、脱炭素や資源循環の事業創出、仕組みづくり、地域活性化支援など年間50件程度の環境ビジネスを支援しています。

環境という領域は時として（または得てして）学術的な視点から語られることが多く、ビジネスとしての取り組みは体系的に整理されていない部分があります。さらに、環境ビジネスの多くが欧州主導で発展してきたため、日本では実務的な知見が十分に共有されていません。こうした状況を踏まえ、環境ビジネスを包括的かつ構造的に理解するための実践知の体系化を目指して執筆しました。

本書の構成は次の通りです。

まず、第1章では、なぜ、環境ビジネスが企業の競争力を左右するテーマになっているのかを解説します。環境対応がコストではなく、成長エンジンへと変わりつつある背景や規制・ルールの変化がビジネスに与

える影響を整理するとともに、環境ビジネスに潜む落とし穴や押さえておくべきトレンドについて俯瞰します。

第2章では、環境ビジネスを「脱炭素」「資源循環」「環境汚染対策」「生物多様性」の4つの分野に分け、それぞれの特徴と具体的なビジネス機会を解説します。さらに、これらの分野を横断することで生まれるシナジーや自治体・民間企業の連携による新たな可能性についても取り上げ、環境ビジネスの全体像を立体的に理解できるようにします。

第3章では、環境ビジネスを実際に立ち上げるための進め方を解説します。課題の特定から実現可能性の検証、事業計画の策定、実行にいたるまでを4つのフェーズに分け、どのように考え、進めればいいのかを具体的に示します。

そして、第4章では、筆者がおすすめする環境ビジネスの事業モデルを30個ピックアップし、図解しています。自社での取り組みを検討する際のヒントとなるよう、事業の狙いや課題、収益化のポイントも解説しています。

環境ビジネスを取り巻く潮流は、いままさに大きな転換期を迎えています。この機会をどう捉え、どのように事業としてかたちにしていくのか。企業だけでなく、地域の活性化を担う自治体も考えていく必要があります。

本書を通して、環境ビジネスの可能性を一緒に紐解いていきましょう。

堀 敦博

# GREEN BUSINESS

IMPLEMENTATION MODEL ZUKAN

はじめに

150兆円超のGX市場でビジネスチャンスをつかむ……………3

## 第 1 章

### 環境ビジネスが企業の競争力を決める時代へ

環境対応は企業の成長エンジン……………	12
環境ビジネスのキーワードを整理する……………	16
ルールや法律がビジネスのあり方を変える……………	23
環境は商取引のキーワードに……………	27
環境ビジネスは長期トレンド……………	29
環境ビジネスに潜む落とし穴……………	32
落とし穴に落ちないために……………	36
環境ビジネスのトレンドをつかむ……………	39
環境ビジネスに関する日本国内の制度・政策……………	43



## 第 2 章

# 環境ビジネスの4分野と分野横断シナジー

環境ビジネスのトレンドを分野別に理解する ..... 50

### 1 脱炭素分野

脱炭素は地球温暖化が生んだ巨大市場 ..... 51

変化するビジネスの「ものさし」 ..... 54

私たちがいますべき具体的なアクション ..... 55

脱炭素分野の代表的なビジネス ..... 62

脱炭素分野における企業の取り組み事例 ..... 67

### 2 資源循環分野

サーキュラーエコノミーへの転換 ..... 71

「再資源化事業等高度化法」をマスターする ..... 73

私たちがいますべき具体的なアクション ..... 77

資源循環分野の代表的なビジネス ..... 79

資源循環分野における企業の取り組み事例 ..... 82

### 3 環境汚染対策分野

日本の環境基準は世界トップクラス ..... 88

環境汚染対策の基本は「予防」と「計量・測定」 ..... 91

私たちがいますべき具体的なアクション ..... 98

環境汚染対策分野の代表的なビジネス ..... 99

環境汚染対策分野における企業の取り組み事例 ..... 102

### 4 生物多様性分野

生物多様性はこれから伸びる期待の分野 ..... 103

私たちがいますべき具体的なアクション	106
生物多様性分野の代表的なビジネス	109
生物多様性分野における企業の取り組み事例	111

## 5 分野横断シナジーと官民連携

これからの主流は分野横断型	114
自治体が拓く環境ビジネスの可能性	118
持続可能性を高める官民連携	126

## 第 3 章

# 成功する環境ビジネスの組み立て方

環境ビジネスは4つのフェーズで組み立てる	132
フェーズ1：課題を特定する	133
フェーズ2：実現可能性を調査する	144
フェーズ3：事業計画を立てる	151
フェーズ4：事業計画を実行する	158
環境ビジネスを具体化する業種別の実装モデル	162
耕種農業(稲作・畑作)／畜産業／林業／水産・漁業／電力業／ガス業／化学・鉄鋼・非鉄金属業／食品製造業／電気・情報機器製造業／建設業／不動産業／商社・流通・卸売業／小売業／物流業／廃棄物処理業／情報通信(IT)業／リース・レンタル業／広告・出版・メディア業／飲食・宿泊・娯楽施設業／アパレル・雑貨業	

## 第 4 章

# 環境ビジネス実装モデル図鑑

01	アップサイクルプロダクト創出	186
02	堆肥化&ガス化ハイブリッド 設備の共同利用(シェアリング)	189
03	バイオ炭・バイオコークスの製造・販売	192
04	ドロップイン燃料(バイオ燃料)活用	195
05	水素・アンモニアのサプライチェーン	198
06	e-methane(合成メタン)の製造・供給	201
07	バイオマス原料への転換支援	204
08	容器等循環型D2Cサブスクリプション	207
09	DC(直流)給電システム販売	210
10	中高層木造ビルの建築	213
11	ネイチャーポジティブ認証による環境プレミアム賃料	216
12	リバースロジスティクス代行	219
13	リセール(二次流通)プラットフォーム	222
14	バイオ燃料によるカーボンインセッティング	225
15	廃棄物由来バイオディーゼル燃料(BDF)の製造	228
16	デジタル製品パスポート(DPP)の受託開発	231
17	「水」のクローズドループサブスクリプション	234
18	GX伴走型コンテンツ制作	237

19	プラスチックごみ削減とゼロエミッション	240
20	ヴィーガンレザーのD2Cブランド	243
21	木材利用による炭素貯蔵証明(LCA販売)	246
22	ブルークレジットの販売	249
23	CO <sub>2</sub> 回収・再資源化(CCU)による産業ガス化	252
24	低CFP商品ブランディング	255
25	ネイチャーポジティブ認証商品のプレミアム販売	258
26	生物多様性ゲーミフィケーション	261
27	汚染土壌除去装置のリースサブスクリプション	264
28	地域特産物のストーリーコマース	267
29	バイオマス熱供給	270
30	地産地消ショートサプライチェーン	273

おわりに

トレードオフだった経済と環境を 実装モデルでトレードオンへ	277
----------------------------------	-----

## COLUMN

① 「グリーンプレミアム」を解消する3つの戦略	48
② カーボンクレジットの価値を高める「スタッキング」	130
③ 関連省庁の支援を活用して賢く戦略設計する	184
④ 「逆ロジスティクス」の効率化	276